

「道づくりのひみつ」発行

全国小学校や公立図書館に寄贈

将来の担い手に思い伝える

監修・NIPPO

学習漫画の代表的なシリーズとして全国の小学校や公立図書館で閲覧でき、刊行の歴史から親子2代で愛読することも少なくない学研の「まんがでよくわかるシリーズ」の77冊目として「道づくりのひみつ」が15日に発行された。全国の国公私立の小学校(特別支援学校含む)等に約2万3500冊、全国の公立図書館に約3000冊が寄贈・配布される。

同書は、まんが本編の

ほかコラムとまめちしきで構成。対象読者は、社会科で日本の産業を学ぶ小学5年生を設定しており、ハードカバーで128頁。発行にあたりNIPPOが監修し、まんがのシナリオをはじめコラム、まめちしきの原稿を作成している。

本編では、ガイド役の「ドクター老土(ろうど)」と小学生の「健吾」と「俊介」の3人が、空を飛んだり、地中に潜ったり、タイムスリップしたり、ジオラ

マの街を探検するなど道路舗装に関する冒険を通じて「道づくり」への興味を高めていく内容となっている。①「道づくりのひみつ」ってなに? ②道路の大切さなど動機付け ③昔の道って、どんな道? ④祖父母が語る未舗装の不便さ ⑤道に「ひみつ」がいっぱい ⑥まめちしき視点での観察 ⑦目的に合ったさまざまな道(道の種類と展開) ⑧道ができるまで(実際の舗装工事など) ⑨アイデアいっぱいのおまじな道(道づくりの今後や拡がり) ⑩これからの道づくりは、君たちの手で(将来の担い手へのメッセージ) — の7章で構成される。また、コラムでは▽「アスファルト」とは?▽アスファルト合材工場▽道路工事現場の機

械▽舗装の技術 — など、まめちしきでは▽大宝律令で重要道路を7つに分け、道路のつくり方等を定めている▽点字ブロックは日本で誕生、ブロックの形で進めと止まれがわかる — などを紹介している。

監修を担当したNIPPOは、日本は、東日本大震災をはじめ災害大国である上に、社会資本の大量更新が迫る中、建設産業は重要な産業である一方、その実態と社会が抱くイメージが乖離している現状を危惧し「社会貢献とともに業界のPRによる理解」を図る考えで、特に、若者の建設業離れに危機感を抱き「正しく伝えていかないと業界に将来はない」と同書の発行に全面的に協力した。

実際に同社でも社外発信の機会は少なく、ゆえに、資料がまとまっていない、わかりにくい資料しかないなど「理解促進のツールが無かった」と指摘。今回、監修したことでも「小学生にわかるように舗装の基礎知識から記事とともに「道路に関する事項を網羅している」ことから業界を知らない多くの人が満足できる内容となっている。情報発信の基本は、その思いのある人間・団体(会社)が行うものであり、伝える努力を惜しまないことを強調。骨太のストーリーとするため主人公は男の子2人とし、手描きの漫画家を選ぶなど細部にこだわった熱い思いの一冊となっている。

HPや現場見学会で配布

また、NIPPOは同書の発行に合わせ、同社ホームページ(HP)にキッズサイト「道づくり探検隊」を開設。将来を担う子供達に、普段当たり前

に通っている道はどんなつくりなのか、どうつくるか等「道づくり」の秘密をクイズを交えながらわかりやすく紹介している。さらに「家族の日」の18日に、「家族・地域のきずなを再生する国民運動」の一環として、千葉統括事業所管内の圏央道長南市原工事事務所で開催した現場見学会において発行されたばかりの「道づくりのひみつ」を参加した子供達にプレゼントした。見学会には従業員家族ら約70人が参加し、同社が施工している圏央道市原南IC近くの仮設プラント見学と施工機械の体験乗車会を行うなど、同書のプレゼントとともに参加した子供達は大喜びだった写真。

